# JEG ニュースレター192号

www.jegschweiz.com　　２２.Sep.2024

### 小さな証

プラハに産声をあげた家の教会の信仰が脈々と受け継がれ、昨年、チェコ日本語キリスト教会が創立されました。P2

### 招待牧師

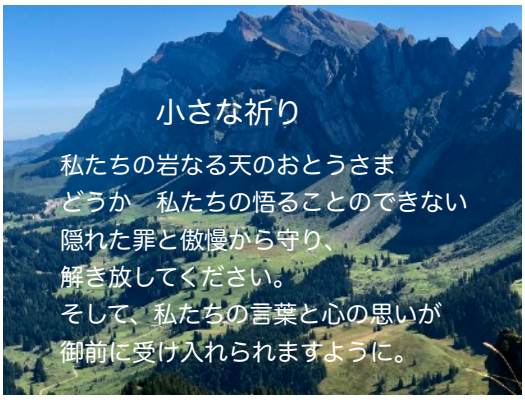
北イスラエルの施設に重責のあるマイヤー牧師に代わり、ドイツ各地からも説教のご奉仕をいただきました。

### ３つの家の教会

北ドイツ、チェコ、フランスに三つの（家の）教会が創立され、信仰の息吹を感じました。P3

### ”集い”の証／感想文集

第４１回ヨーロッパ・キリスト者の集いへの参加者の感動と恵みを分かち合います。




**すべてのことには定まった時期があり、天の下のすべての営みに時がある。**
伝道者の書　３：１
（第４１回”ヨーロッパ・キリスト者の集い”大会聖句）

# ちいさな証

## 信仰と希望と愛によって

山下那美
チェコ日本語キリスト教会

チェコ・プラハの日本語礼拝の始まりは、2005年に遡ります。駐在員として日本から来られた川副夫妻に「プラハで日本語礼拝を！」との熱い思いが与えられ、「家の教会」としてスタートしました。

当時の信徒達の思いに理解と協力を示して下さったのがコビリシ・ヤコブの教会で、当時この教会はチェコと韓国間の教会で結ばれた宣教協定によって、両国の信徒が「宣教においての協力」を宣言し、1999年 10月より毎月第一聖日に合同礼拝をしていました。この教会の協力の下、通訳を介して日本人信徒たちにも韓国語礼拝参加の道が開かれたのです。更に近隣国からの日本人牧師の派遣も可能となり、日本語礼拝が始まりました。2008年にはソウル教会の支援によって、宣教師として孫信一牧師（母国語は日本語）が日本語礼拝の専任者として派遣され、日本人信徒および訪問者が集い、毎聖日の礼拝が2023年 4月まで継続されました。15年間の長きに渡り、日本語礼拝の継続に心を尽くし、訪れるすべての人々を温かく迎え、神様の愛を伝えて下さった孫信一牧師の働きに心から感謝し敬意を表します。

2005年に与えられた熱い思いはこのような歩みを経て、2023年の秋、神様のもとに数人の日本人信徒が呼び出され、「チェコ日本語キリスト教会」という名前で活動を受け継ぐこととなったのです。当時はまったく何も分からない私たちに与えられたのは、聖書のヨシュア記でした。神様からのヨシュアへの約束と励ましが私達にも向けられていると受け止め、読み進められたことは大きな恵みでした。神様がすでに与えてくださった教会形成という願いを、どのように実現していけばよいのか、ヨシュア記のみ言葉に導き教えられてきました。その一方では、とるに足りない者である私達にとって、教会設立の重荷を負うことなど到底できないと弱気になることもしばしばでした。ところが「前進のための水曜集会」と名付けたネットミーティングで交わり祈るたびに、私たちの心は新しくされ希望が強められたのです。引き返すことも歩みをやめることもできず、私達には前進するしか無いことを認めざるを得ませんでした。

主は私達の弱さの全てをご存知で、その弱さをも用いて下さいます。何も持たない私達に出来ることは唯一つ、主のみ心に用いていただける器と成らせて頂くことだけなのです。この教会形成の原点に一致をもって立ち続けるために、共に集い、祈り合い、み言葉を求め続けていきたいと心から願っています。

教会の発足から一年が経ち、振り返ると一つの大きな恵みの流れが見えてきます。それは神様が、様々な方法で国を超えて主にある兄弟姉妹との結びつきを与え、人々を派遣して下さり信徒間の交わりを通し、励まし続けて下さっているという「主にあっての愛と幸いの証」なのです。教会発足直後にプラハが「高原剛一郎欧州宣教旅行」の宣教地となりました。参画教会とのネット準備会では、国を超えて先達の兄弟姉妹方に励まされ教えられたことが多々ありました。歩み始めたばかりの私達を深く理解し、愛の手を差し伸べて下さり大きな支えとなりました。

昨年のアドベントの時期には、スイス教会のメンバーが三人応援に駆けつけて下さり、プラハの教会の前階段に立ってクリスマス賛美をし、真っ白な雪景色の中で心を一つにした喜びは言葉では表せません。今年の５月にはプラハ日本語教会の始まりを担って下さった川副兄姉が訪ねて下さったり、私の母教会（鎌倉海岸キリスト教会）からは、邦人伝道に活用できるようにと四季ごとの星野富弘さんのトラクトが届きました。６月には横須賀から兄姉の訪問があり、８月には主の不思議な導きにより横山大輔、和子兄姉によるゴスペルコンサートが実現し、10月には、スイス、ドイツの姉妹たちの訪問による「Tea Salon ミルトス」の開催が予定されています。

このようにして神の家族が出会い、再会し、主に感謝と賛美をお捧げしつつ、この教会がイエス様の良い体として建ちあがることを共に祈っていて下さいます。この様子を父なる神様はどれほど喜んでいてくださるでしょうか。

「見よ。なんという幸せ　なんという楽しさだろう。兄弟たちが一つとなって　ともに生きることは。」（詩篇133: １）

「わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」　（ヨハネ 13:34, 35 ）

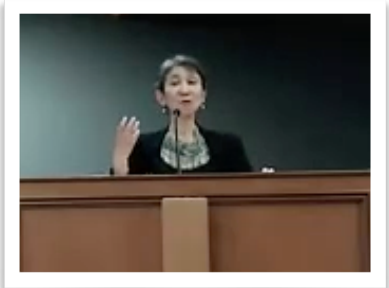
神様は私達がこのみ言葉を深く味わえる者となり、この恵みこそが教会形成に向けてもっとも望まれていることであり、大切なことだと思うのです。

教会発足から二年目に入り、すでに心の中では棟上げ式（参：前号のニュースレター）は終わっていて、次のビジョンとして、イエス様を頭とした体の各器官が備えられ、愛によって一つに組み合わされることを目指しています。最も小さな教会の求めを見逃さない神様は、牧師をどのように備えて下さるでしょうか？福音伝道の大きな力となる賛美リーダーが必要ですし、パソコンをうまく活用できる若い力も欠かせません。全てをご存知の方がすべてを満たして下さると信じています。

どうぞお祈りによって助け、また教会へもご訪問下さって私達を勇気づけてください。心から喜んでお迎えしたいと思います。

チェコ日本語キリスト教会のＨＰ：https://ty4design.wixstudio.io/czech-japan-church

## 1、招待牧師によるメッセージ



戦時下の北イスラエルにある２つのホロコースト生存者のための老人ホームと休暇施設の理事長として重い責任を負い、出張が重なるマイヤー牧師の代わりに、７月から９月にかけて、フランクフルトからは矢吹博牧師、並びにスイスJEGとしては初めてお迎えするミュンヘン日本語キリスト教会の井野　葉由美牧師に説教のご奉仕をいただきました。

井野牧師は声楽の勉強のために訪れたヨーロッパで救われ、ヨーロッパ在住期間も長く、2006年からハンブルグ日本語福音キリスト教会牧師として奉職され、2021年から安藤牧師を引き継いでミュンヘン日本語キリスト教会牧師としてお働きです。また、ヨーロッパ・キリスト者の集いには長期に渡って関わっておられ、今回の集いにも大きなお働きをされました。また、今回はスイスJEGでのご奉仕の翌日、サンクトガーレン市の家庭集会・アネモネの会においてもお話をしていただきました。

８月１１日の井野牧師のメッセージ”祝福の基になる”はスイスJEGのホームページ　https://www.jegschweiz.com/で視聴いただけます。

## 2、マイヤー牧師の”集い”における講演に大きな反響

今夏の”キリスト者の集い”でマイヤー牧師は、「イスラエルの現状を聖書の視点から見て」のタイトルで講演されました。テーマが、イスラエル建国の歴史から今日までのイスラエル対パレスチナ問題、そして将来を聖書的視点から解き明かされるとともに、イスラエルに関する神学における理解と見解の相違を系統的に解説されました。

YouTubeにアップロードされた講演動画は大きな反響を呼び、９月１８日まで8353回再生されました。

この動画はこちらで視聴いただけます。また、PPTとドイツ語訳は集いの第41回集いの特設サイトにアップロードされていますので、ご利用ください。

https://youtu.be/eXKgyfhGyVU?si=9T-PoQL1hmCc_2-k

## 3、第４１回ヨーロッパ・キリスト者の集いが終了

7月25日（木）から28日（日）まで、シュトゥットガルト近郊のヴェルテムベルグSchönblickで開催されていた第４１回ヨーロッパキリスト者の集いには２１０名の参加があり、CS１７名、ティーンズ２３名、ユース３７名（ユースには、CS・ティーンズ奉仕者も含む）と多くの参加を得て、参加者全員に勇気を与える活気に満ちた素晴らしい集いとなりました。栄光を神様にお返しします。

また”ヨーロッパ・キリスト者の集い”のオフィシャルホームページには記録ビデオ、スライドショーおよび全ての講演がアップロードされましたので、ご利用ください。

第41回Stuttgart特設サイト

来年2025年の集いは、同会場にて８月７日（木）から８月１０日(日）まで開催されます。（定員２００名）

## 4、新生ロンドンJCF

長らく無牧であったロンドンJCFに、この度、福田聖志（さとし）牧師が就任されました。９月８日（日）には、ロンドンJCFハウスに若い多くの友人が集い、午前中は対面礼拝、そして、歓迎会が開かれました。

４０名以上のロンドンっ子が集まったのは、実に１０数年ぶりでした。若い息吹が会場の隅々まで満ちた素晴らしい一日となり、今後のロンドンJCFの躍進が期待されます。

## 5、内村伸之牧師ご夫妻がミラノに帰還

半年間のサバティカル休暇を日本で過ごされていた内村伸之、まり子ご夫妻が、７月１日にミラノにお帰りになりました。内村師は”ミラノの風において”これからも、皆様と共に、神の知恵を大胆に求め、聖霊によって御心を悟り、共に人生の季節を生きながら、宣教の働きを進められれば幸いです。”と締めくくり、決意を新たにされています。どうか、ご夫妻の健康とお働き、ミラノ賛美教会のためにお祈りください。

## 6、ヨーロッパに三つの家の教会

北ヨーロッパ、チェコ、フランスに３つの”家”の教会が創立され、連絡代表者名簿に正式に登録され、集いへの参加も各集会から直接申し込みいただけるようになりました。

北ヨーロッパは、ハンブルグ近郊のブラウンシュヴァイク日本語聖書の会（代表：中島仁兄）https://www.instagram.com/bs.bibel.jp/

チェコはプラハ市のチェコ日本語キリスト教会（代表：山下那美姉）
https://ty4design.wixstudio.io/czech-japan-church

フランスはストラスブール聖書のお話を聴く会（代表：今村泰典兄）
https://strasbourgbiblejp.wixsite.com/home

ストラスブールの集会は２００８年５月１日に発足し、２０２１年１１月から、マイヤー・マルチン牧師、阿部知幸牧師、矢吹博牧師を迎え礼拝が始りました。

７、世界各地から月報／ニュースレター＆メルマガが届いています。
ミラノの風、フランクフルト日本語福音教会月報ひろば、工藤篤子メルマガ 、井野葉由美メルマガ、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ル・ミサ便り、森ゆりニュースレター、ミッション”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。

S C H W Ä B I S C H　G M Ü N D

# 第４１回
# ヨーロッパ・キリスト者の集い
## 証と感想

## いただいた恵みの大きさ

佐川理恵

オランダ南部日本語キリスト教会

私にとって修養会は７年ぶりで、静かに神様の前に心を注ぎだす時間を与えられ、ありがたく思います。知らず知らずのうちに飢え渇いていたのか、持ちきれないほどの恵みを戴きました。

一つ一つのお話を聞きながら私の過去の困難と不信仰について思いをめぐらしました。

私は韓国と日本から食品を輸入する会社につとめて１９年になりますが、自分の仕事が本当に好きで、この仕事が与えられたことに感謝しています。しかし、いくら好きでも苦しいこと、辛いことは何度もありました。どうしてこのようなことが起こるのか、助けてくださいと神に祈りました。

祈ることは間違いではありませんでしたが、イスラエルや、ウクライナで主を喜ぶ人の姿を見ていて、一つ今、祈り方について神様が気づかせてくれたことがあります。それは私が神様に祈る時、私の心の視線はイエス様よりも苦しみの方に向いていたのではないかと思うのです。

イエスを見失い嵐に目がいってしまった水の上のペテロのように。私の心があのとき、苦難にではなく、もっともっとイエス様の恵みに向いていたら、私の心には平安が与えられていたのではないかと思うのです。いま、今日という日に恐怖と痛みにありながら、主に歓んで感謝を捧げられるというのはどんなに大きな恵みでしょうか。

今は、与えられた苦難よりも、いただいた恵みがどれほど大きかったかと思えます。そして、一難去ってまた一難という出来事の一つひとつは、神様が私を訓練するために与えてくださった恵みなのだと受け止めています。

# イスラエルについて学んだこと

佐々木久幸
カールスルーエ聖書の学び会

今年の集いも、3年連続で南ドイツのシュヴェービッシュ・グミュンドにあるシェーンブリック施設にて行われました。この集いに参加できたこと、また実行委員の一員として微力ながらも喜んでご奉仕できたことを、主に心から感謝いたします。

今回の集いの中で特に印象に残っているのは、石堂ゆみ先生とマルチン・マイヤー先生が語られたイスラエルについての講演です。イスラエルという国は、私にとって日本にいるときは全く無縁で無関心な遠い存在でした。黒い帽子、黒い服、そして大きなヒゲのいわゆるユダヤ人を見たこともなければ、道ですれ違ったこともありませんでした。

ドイツに来てから少し距離は縮まりましたが、それでも「よその国」の一つに過ぎませんでした。しかし、信仰をいただき、教会に行くようになってから、イスラエルは急に身近な国になりました。昨年は聖地旅行にも参加させていただきました。

中でも、石堂先生のお話にありました「ヘブル的、ギリシャ的視点の違い」が特に印象的でした。困難な時に不思議と助け舟が来て、状況が打開されるということを何度も体験してきました。お祈りもしてきました。しかし、そういった場合でも、状況の打開策を論理的に考えたり行動したりせずに、最初からその不思議を信じるということは、とても難しいことだと思います。

「ユダヤ人というのは、突拍子もない考え方ができるんだなぁ、だからノーベル賞もたくさん取れるのか!?」などと、自分勝手に想像してしまいました。

今回のお話を通じて、イスラエルのことが前よりほんの少しわかったように思えます。また、最後の前田利家の執り成しについての説明もわかりやすかったです。先生のおっしゃる通り、この時代に救われている異邦人として、私たちの使命は執り成すことであり、非難することではありません。イスラエルだけでなく、日本にいるまだ救われていない方々のためにも、執り成しをしていきたいと思います。

また、マイヤー先生の講演の前半にあったイスラエルに対する二つの考え方（主義）の違いについての説明も、大変わかりやすくて良かったです。どちらが良い・悪いというわけではなく、こういう考え方があるということで、自分の立ち位置が前よりよくわかるようになりました。このような素晴らしいお話を聞くことができたことを、とても嬉しく思い、主に感謝いたします。

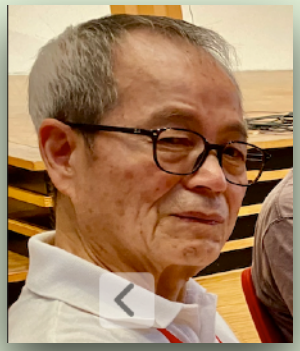
実行委員としてのご奉仕は、もう一年させていただく予定ですので、ここではひとりの参加者の視点から感想を書かせていただきました。4日間にわたり多くの牧師・宣教師の先生方が講演や礼拝を捧げられ、また、分科会やスモールグループでの時間もとても充実していて、祝福された日の連続でした。

貴重な時間を割いて準備された先生方、リーダーの方々に心から感謝いたします。来年も、どうぞ主がこの集いを祝福してくださいますように。

## 2024Tsudoiに参加して

金子進
オスロJCF

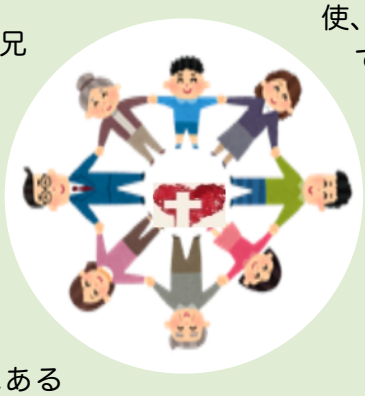
見よ。なんという幸せ、なんという楽しさだろう。兄弟たちが一つになって、共に生きるとは。それはまたヘルモンからシオンの山々に降りる露のようだ。詩篇１３３：１節、３節



オスロからヨーロッパ修養会場までの距離は長い。飛行機を乗り換え、電車と汽車、またバスかタクシーで会場に着くまで一日かかる。年齢を重ねるたびに遠く感じるのは無理もない。

しかし、行きたくなる不思議な感情を持たせてくれるのが「ヨーロッパ・キリスト者の集い」である。

3泊4日の中で主にある兄弟姉妹が一同に集う中に、神様の臨在が露のように豊かに降り注いで下さっているからである。老若男女が何のわだかまりもなく、自由に挨拶をかわし、話し合い、食を共にし、笑顔で主にある救いの平安を共有している。



盛り沢山な合同集会、分科会、交わり会の内容も素晴らしく、参加者一同が満足できている様子がその笑顔の中にあふれ出ている。初めてお会いする方々も多いが、もう何年も会っていたかのように笑顔で挨拶のあと会話が弾む。この集いを可能にしてくださっている実行員会、協力者の方々には頭が下がります。神様からの豊かな祝福と労いがありますように。

私個人としてはマイヤー先生の「イスラエルの現状を聖書の視点から見て」は聖書を学ぶ者として、最も緊張感をもって聞き入っていました。神学生時代に学んだ「聖書の時代真理」をもう一度、分かり易く現在のイスラエル状況を鑑みて解き明かしてくださいました。この課題の主流を行く先生の解釈は、聞く者にとっては聖書信仰教理の再確認でもありました。この動画は世界の友人、知人に拡散するつもりです。

昨年に紹介しました「小さな愛ありがとう」の小さな天使、健人君にも再会できました。恵み深い感謝な４日間でした。

愛する兄弟姉妹、また、来年もお会いしたいです。

## その日が来るまで

高塚誠二

パリ・プロテスタント日本語教会

今年の夏のヨーロッパ・キリスト者の集いのテーマは「時がある」でした。

多くの先生方の取り継がれたメッセージを聴くことができ、神様の時と言うことの意味を、これまでの自分の人生に起きてきたことと照らし合わせて考えることができた集いでした。

自分の人生の中でいろいろなことが起きましたがその時その時は何も深く考えることはありませんでしたが、今過去を振り返ってつらつらと思う時、それぞれの出来事が、神様がたてられた私の人生への計画の時にかなって起きてきたことであったと、納得して腑に落ちるようになりました。

神様がご自分のご計画に予定された時に起きた出来事のおかげで、今の私の信仰があることもようやく理解できるようになっています。それとともに、神様へのますますの信頼と確信と期待する気持ちも固まってきていることも実感しています。

また、今回の集いで、いろいろな方々とも初めて知り合いになることができたことも、これも神様の時にかなったことなのだと考えることができて、帰路こうした出会いを喜びつつ自宅に戻りました。

２年前の集いのテーマは「キリストにある自由」、昨年のテーマは「キリストを宣べ伝えよ」、そして今年は「時がある」でした。この３年間の集いに参加してきて、私自身がイエス様の贖いによって罪から自由にされたこと、そしてイエス様を宣べ伝えていきたい気持ちが心に湧いてきた自分に起きた変化を思うとき、私は神様に変えられていることを実感できています。そして今年の集いは、私にとっては神様がご計画された私の時が来ていることを神様が集いを通して現わされたのであったかと、このことも考えつつ自宅に帰りました。

なぜなら、ここ半年ぐらい前から、私は、私に残された唯一の最後の肉親である実の兄に福音を伝えようとしています。この気持ちは一年ぐらい前にキリスト者の集いから戻ってから、突然私の心に湧いてきたのです。

この気持ちは今も私の心にしっかりと根を張って変わっていません。今回の集いに参加して帰宅して今心に思う事は、兄に福音を伝える私に対する神様の時が来ていること、ということです。

兄には今年の五月下旬の帰国時に聖書を渡すことができて、兄も「歴史書として読むよ。」って言ってくれ私も喜んでいたのですが、その後時々、私がよく聞く先生のYOUTUBE配信の福音メッセージを兄に送りましたが兄からの拒否反応にあっています。しかし、その中でイザヤ書40章の御言葉が与えられ、励まされ新たな力を得ています。

「主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。　走っても弱ることなく、歩いても疲れない。」　イザヤ書 40:31 新共同訳

この世において必ず兄の信仰告白を聞き、兄と共に聖日礼拝を守れる日が来ることを、その日が来るまで私は天に召されることはないとの確信も祈りの中で得ることができています。

来年の集いにも主の御心であれば参加したいですし、参加できると思います。主の御名はほむべきかな、ハレルヤ！

## 素晴らしい人々との出会い

ソフィア・シュルツ

フランクフルト日本語福音キリスト教会

私はフィンランド人のソフィア・シュルツです。フランクフルトの近くのケルクハイムに住んでいます。DMGという宣教団体で働いています。

2019年から2021年まで宣教の働きのために日本に住んでいました。私にとって、キリスト者の集いへは2度目の参加となりました。天気にもめぐまれ、同じ信仰を持つ素晴らしい人々との出会い、美味しい食事を楽しみました。特にイスラエルをテーマにしたメッセージを聞けたことは感謝でした。神学的なイスラエルについての講義はとても興味を引き有益でした。

木曜日、集いの会場に向かう時、私の車が壊れてしまいましたが、どうにか無事に着くことができました。出発前に、Darmstadtで、えまちゃんとシスター・ソハラと私の3人で祈りました。だから、神様が助けてくれたと信じています。奇跡的に、金曜日、修理工場で直してもらうことができ、安心してフランクフルトに戻ってくることができました。

これからも、日本人へイエス様をさらに伝えたいと思いました。

## 時と空間、そして聖霊の存在

クリスチャン・ブリュック

フランクフルト日本語福音キリスト教会

ヨーロッパにおける日本人クリスチャンの共同体と４日間を過ごせたことは、なんという実に素晴らしい経験だったことでしょう!

私にとって今回で6回目となる参加でした。今回の私のハイライトは、集いにおける最後の講演となったフランクフルト日本語福音キリスト教会の矢吹博牧師による”種まきと収穫”についてのメッセージでした。
このように力強く、個人的で感情豊かなメッセージは、末長く私の心に生き続けることでしょう。

矢吹先生ご夫妻の１０年に渡るドイツのみならず広くヨーロッパにおけるみことばの強力な種まき者としての、たゆみないお働きに私は心から感謝しています。

さらに集いにおける”ドイツ語グループ”は、毎回、絆を深めつつ成長しています。私のクリスチャン兄弟姉妹たちが、このグループを始められた時、チーム内での安心できる時と空間、そして聖霊の存在をはっきりと感じることができました。

そして、私たちの人生における大きな疑問を語り合う時、クリスチャンの友達の神様との経験を知り、祈り合う時、私の人生を豊かにしてくれました。忘れられないのは、ワインやビールの杯を傾けながら、引き続き過ごした素敵な夜です。

もし、あなたが日本人の伴侶を持つドイツ人なら、どうか、次回２０２５年の集いに参加することをためらわないでください。どうか、いらしてください。来年、お会いできることを今から楽しみにしています。

## 初めてキリスト者の集いに参加して

ダニエル・ラドウスキ

フランクフルト日本語福音キリスト教会

初めて”キリスト者の集い”に参加させていただきましたが、とても楽しかったです。

ドイツ語を話す小さなグループに入ることができ、実に有益で貴重な体験でした。とても心地よい雰囲気で、温かく迎え入れてもらい、すぐにお互いを知ることができました。

ほとんど知らない人たちとすぐにプライベートな話ができたことに驚きました。また、互いに祈る時間を持てたこともとても良かったです。小グループでの会話や廊下で他のクリスチャンと話す中で、日常生活の中での信仰に役立つ小さな貴重な提案やインスピレーションを得ることができました。

説教や講義、ワークショップは非常に興味深いものでした。特にイスラエルに関する講義は非常に勉強になりました。日曜日の朝に行われた、尊敬する矢吹牧師の最終説教はとても励まされるものでした。

通訳者の皆さんにも大きな感謝を伝えたいです。母国語に素早く、そして的確に内容を伝えてくれたことに感動しました。また、ティーングループのリーダーの皆さんにも感謝です。素晴らしい仕事をされました！私たちの二人のティーンエイジャーの娘たちも、とても楽しかったようです。

この4日間は非常に集中した時間でしたが、とても充実していました。集い会場に疲れて到着しましたが、元気を取り戻して帰ることができました。そして、非常に刺激的だったので、次回また参加できることを今から楽しみにしています。

## キリスト者の集い2024
# ユースプログラム感想

通訳と言う賜物を発見しました。またの奉仕が楽しみです。イスラエルについて学べた事がとても良かったです。(祐登)

A Great moment of resourcement and new contacts. It was good to see how much God is doing among the Japanese community in Europe! Thank you all for your hard work and I am looking forward to come next time. (Maria)

今回、初めてヨーロッパ・キリスト者の集いに参加しました。私は日本から行ったので、ほとんど知り合いがいない状態でしたが、みなさんとても親切で4日間楽しく過ごせました。講演も充実していて、ウクライナの現状など日本では聞くことができない話も聞けて良かったです。初めての参加でしたが、奏楽の奉仕もさせていただけたことに感謝しています。日本で歌っている曲もあってなんだか嬉しかったです。ヨーロッパのいろいろな国々、日本人のクリスチャンがいることがとても嬉しく感じました。企画、運営をしてくださったみなさんにも感謝しています。ありがとうございます。(大武愛香)

ヨーロッパ・キリスト者の集いのイベントで、他のクリスチャンたちと一緒に主を礼拝する素晴らしい時間を過ごしました。スモールグループの活動では、聖書のメッセージについての考えを共有でき、分科会もよく組織されていました。多くの講師たちのメッセージを聞くこともでき、とても良かったです。メインホールが時々少し暑かったこと以外は、集いのイベントを本当に心から楽しむことができました。(桑子芽衣子)

今回の集いは、わたしにとって特に特別でした。横山大輔さん、和子さんとの事前ミーティングの中で、集いオリジナルの賛美を作るというアイディアが与えられ、作曲した経験が数少ない中で賛美を作ることになりました。どのように作ればいいのだろうと不安に思いながらも、ある日スイスの山の中で自然を見ていた時、自然とメロディと歌詞が頭に浮かんできました。最終的にはユース担当の賛美タイムで、本大会の参加者も含めてみんなで賛美できたことが、とても心に残っています。また、集いの中でイスラエルとウクライナの状況について知ることができたこともよかったです。集いの後も、彼らの状況をより身近に感じながら日々祈っています。(井ノ上歌歩)

限られた時間の中、若い世代の集いに参加できて、緊張せずに過ごせてよかった。(匿名)